

上海空港混乱

日本↓中国滞貨続く

SC網渡り海上輸送にも波及

中国・上海浦東空港の混乱の影響が広がっている。日本発中国向けでは滞貨が続く、中国発日本向けの輸入にも支障が出ている。東南アジア、北米などの地域も同様で、航空輸送全体のキャパシティへの圧迫感が強まってきた。国際物流のボトルネックが相次いで発生する事態に、荷主の不安心理も増幅。それが海上輸送にも波及し、サプライチェーン（SC）は網渡りの状況が続いている。

「日本発上海向けの航

空輸出は見通しが立たない状況だ。航空会社にブックイングできたとしても、突発的な欠航や貨物の積み残し、搭載便の変更が頻発している。大手フォワーダーの関係者「浦東空港では新型コロナウイルスの防疫対策が大幅に強化され、先月下旬から貨物の取り扱い機能が大幅に低下。航空会社の貨物便の欠航や受託停止・制限が続いている。

これに伴い、日本側では航空輸出の停滞が問題

になっている。一部航空会社で運航機材の大型化や臨時便の運航などがあり、スペースの逼迫感は一時期よりも緩和しているという。それでも、「航空会社の運航線りは依然不安定でスペースタイトな状況に変わりはない。数日後の状況も分からない」（大手フォワーダー）。

客には上海向けは最低数

は断らざるを得ない状況だ（同）という。フォワーダーの物流施設では、先週半ばごろから輸出を待つ貨物の滞留が発生。一部航空会社の上屋も満床になり、貨物の受け入れを搭載当日などに限るなど搬入制限がかかっている。荷主側も保管スペースの確保に苦慮しており、「貨物の行き場がなくなっている」（同）。

北米間の航空輸送も逼迫。もともとコンテナ

船による輸送の混乱で航空輸送へのシフトが起きていたところに上海空港発の圧力が加わり、スペース不足に拍車を掛けている。年末に向けた繁忙期も本格化し始めていることから、事態の収束には今月いっぱいか

アでの新型コロナウイルス

かるとの見方も出てきた。一方、中国発日本向けでは、消費財関連の荷主が輸入を急ぐケースが目立ってきたという。塩田港、寧波港、上海空港の機能低下と中国発の混乱が相次いだ上、東南アジアでの新型コロナウイルスの感染拡大でベトナムやインドネシアなどから商品輸入が減少しているためだ。

傾向も見られるなど、海上輸送でも不透明感が高まっている。

リー・国際RORO船の

利用などが増加している。さらに、日中間で比較的スケジュールの安定している一部コンテナ船社にも需要が流れ、同船社のコンテナが不足する傾向も見られるなど、海上輸送でも不透明感が高まっている。